

水都大阪の歴史と今をめぐる旅 -中之島周辺散策-

●開催日:2023年7月8日

今にも降り出しそうな空のもと、関ドライブインをバスは出発した。大半は津駅東口から乗り込んだ三重地域会の面々である。私を含め数人の会員は関での合流組だ。久々の“ウォッチング”とあって、大型バスは満席とまではいかないが、結構な参加者だ。

最初の目的地“万博記念公園”までは、てっきり名阪国道～西名阪・・・と勝手に思い込んでいたが、バスは関から東へと向かう。どうも亀山から新名神経由という事らしい。行程に余裕が無らしく、途中のトイレ休憩もなくバスは突っ走る。

お子さん連れの参加者もいて、車内は始終参加者たちの和やかな会話が続けていたが、やはり“けじめ”をつけなくてはと、地域会長森本雅史さんの挨拶が始まり、続いて、ウォッチング幹事の相原裕康さんの行程説明。ユーモア溢れる挨拶に拍手喝采・・・

やっぱりバスの旅は楽しいな、なんて思っているうちにバスは高速道路を降りて大阪の街に入り、万博公園が近づいてきた。目に飛び込んできたのは、久しぶりの“太陽の塔”だ。“大阪万博”を経験した年代にとってはやはり懐かしさがこみ上げてくる。

まずは腹ごしらえ、ということで徒歩で昼食会場へ。お昼は“森の洋食 グリルみんぱく”だ。黒川紀章設計の国立民族学博物館の中にある洋食レストランだが、早く着きすぎたようで、まだ準備が出来ていない。時間待ちに博物館を見学でもしようか・・・

そうこうしているうちに準備も整い、楽しい昼食の時間となりました。お昼もウォッチング



の楽しみの一つで、幹事さんは中々気を遣うものです。おいしい食事をありがとうございました。会話ははずみ、楽しい時間を過ごすことができました。

食事のあとは、いよいよ楽しみにしていた“太陽の塔”特に“生命の樹”の内部見学だ。大阪万博開催当時にはあったらしいが、全く記憶がない。アメーバから人間への進化を表しているようだが、単なる“生命進化模型”ではなく、“根源から未来に向かってふきあげる「生命のエネルギー」”を表現しているらしい。岡本先生は難しい。理解できない。しかし最上階の6階(?)までアツという間に昇っていた。

続いては、中之島までのバス移動、目的の中心は安藤忠雄設計寄贈の“こども本の森 中之島”。「こどもたちに多様な本を手にとってもらい、無限の創造力や好奇心を育てて欲しい。自発的に本の中の言葉や感情、アイデアに触れ、世界には自分と違う人や暮らしが在ることを知ってほしい」というそんな想いで造られたという。土曜日という事もあって、けっこう人で溢れている。こどもたちが、通路や階段などそこらじゅうで座って本を読んでいる。天気の良い日は外で読んでもいいという。実際、外で読んでいる子ども何人かいる。管理する方は

大変だな、と思いつつ、寄贈した安藤忠雄の想いが形になっているんだなと感じた。

折角なので、見学の終わりに参加者全員揃って建物前で記念撮影をして、あとは中之島自由散策、集合場所は最後の水上クルージング乗り場。周辺には“中央公会堂”“中之島美術館”など見どころはたっぷり。若者グループ、年寄りグループ(失礼!)、家族グループ、などに分かれて、皆さんいったいどこへ行ったのでしょうか?

ウォッチングの締めくくりは“お楽しみ、水上クルーズ”、三々五々、クルージング乗り場の“大阪城港”に集まってきた。ほぼ貸し切り状態でクルーズスタート。45分程度のクルージングだが、低い位置から見るビル街はまた違った雰囲気面で面白いものだ。「やれ大阪城」だの「やれどこそこのビル」だの、ワイワイやっているうちに、船は“大阪城港”に帰ってきた。

楽しい時間はアツという間に過ぎ、あとはバスに乗って帰るのか、と寂しい気持ちになってくる。久々の“建築ウォッチング”に名残惜しさを感じながら、企画してくれた皆様に感謝する一日でした。

松本 正博 (JIA三重)
上野建築研究所



国立民族学博物館



万博記念公園 (太陽の塔)